

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会(中学生の部・東部会場)

1 日時 令和 7 年 7 月 25 日(金) 10:00～12:00

2 場所 越谷コミュニティセンター 特別会議室

3 参加者 5名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

最初に、今日、どんなことを話そうと思っているのか。なんで今日話をしようと思ったのか、そのようなことを、自己紹介をしていただける方は、自己紹介と合わせて話してもらおうと嬉しいです。名前、学校名を伏せたい方は、伏せていただいたまま、自由に、一人 2 分か 3 分ぐらい、話をしてもらおうと思います。

(A)

私はガールスカウトに所属していて、BさんとCさんとDさんと一緒にの団体なんですけど、そこで共学化について議論が上がって、この会に参加しようと考えました。元々私たちジェンダーについて勉強していて、だからジェンダーの学んだことも生かせたらいいなって思ってます。少しでも多くの人の選択肢を残すことと、私が行動して、生徒たちの考えを伝えるために参加しました。共学化については、反対なんですけど、しょうがないかなという考えはあります。

(B)

この会に参加しようと思ったのは、ガールスカウトに入っていて、そこで共学化についての話が上がり、それについて詳しく知りたくて参加しました。異性と関わるのが苦手な人にとって、共学化は苦痛なのではないかと考えていて、全て共学にしまうと、別学の良いところが消えてしまい、多様性が失われてしまうんじゃないかと考えました。

(C)

私がこの意見交換会に参加しようと思った理由は、ガールスカウトで共学化についての話が上がったからです。私は共学化には反対です。中学 3 年生になった時に別学か共学か選ぶ選択肢がなくなってしまうのが嫌だからと、別学の学校に行ってみたいと思ったからです。

(D)

私はガールスカウトに所属して、参加した目的はガールスカウトで共学化についての話題が

上がって、県教育委員会が以前とったアンケートの結果があるのに、そこから共学化を推進していこうという考えに疑問を持ったからです。私は共学化に反対していて、実際別学に行きたい人もいるから、共学か別学を選ぶっていう選択肢があることはとても重要なのではないかと考えています。

(E)

僕がこの会に参加しようと思った理由は、家族の中に共学出身の人と別学出身の人がいるんですけど、双方のメリットもデメリットもよく聞くので、ほかの方々がどういうふうに思っているのかなっていうのが気になって参加しました。共学には、今までの中学校生活が楽しかったっていう人にとっては良い関係だと思うんですけど、そこで異性に対してなんか気を遣っちゃったなみたいな人がいる場合は、別学という選択肢もあった方がいいのかなと思っています。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。お一人お一人の意見を聞きました。反対のご意見が多かったようにも思いますし、E さんについては、家族で出身が違うんですね。ではここから、もう少し皆さんの意見を少し、具体的に伺いながら意見を交換していこうと思うんですけども。まず、Aさんから少しお話を伺おうと思います。ジェンダーについていろいろ学んでいらっしゃるの話があったけれども、ジェンダーについては、どんなことを A さんは勉強されてるのかな。

(A)

簡単に言うと、男女で仕事が分けられることについて、ディベートのような感じで話し合ったり、LGBTQ+について勉強したり、いろいろな性があるっていいよねという話もありましたし、自分の性によって収入が変わってくるのがおかしいとか、性別によって何か分けられるっていうのはおかしいっていうのを学びました。でも、男女同じ世界の中にいると、やっぱり性によって仕事が分けられたりもします。だから、性別で分けるっていうのも、性別によって仕事を分けない一つの手段かなっていうのは考えます。

(依田 高校改革統括監)

男女によって仕事が分けられたり、役割が分けられたりすることについて少し疑問を持っているのかな、それについて、実際学校生活、中学校に今通っていて、そういうふうを感じる場面があった人はいますか。性別によって、中学校生活で疑問に思うこと、よくないなと思うようなことというのがあかな。

(C)

先生が教科書とか新学期に運んでくるんですけど、その時に、男子重たいもの持てるかな、みたいな、そんな感じで男子が重たいものを運ぶ仕事みたいな役割になっている。

(依田 高校改革統括監)

女子にはどんな仕事が来るのかな。

(C)

女子はなんか男子が持てなかった余りの少ない教科書とか、ゴミ捨てみたいな、そんな感じ
です。

(依田 高校改革統括監)

軽いものになってくるってことかな、なるほど。そういうのが男子と女子で仕事に分けられ
ちゃったりする。Cさんはそれに対してどういうふうに思うかな。

(C)

おかしいとは思う。男子も女子も重い運ぶの苦手な人とかもいるかなと思う。

(依田 高校改革統括監)

皆さんはどう思うかな。学校の先生が、男子は重いものを運んで、女子には重いものじゃな
くて、軽い方の仕事が割り当てられたりする。だけれどもCさんは男子も女子も重いものを持
つのは苦手な人がいるはずなんだから、それはおかしいんじゃないかなって思ってるとの話で
すけど、それについて意見がある方はいますか。

(E)

男子と女子だと筋肉の量とかの差があって、そういうのが一定数あるのは仕方ないんです
けど、重いものを持てる「男子」じゃなくて「持てる人」でくった方がいいのかなと。

(依田 高校改革統括監)

Eさんは、男とか女とかっていう性別ではなくて、一人一人が持てるのか、持てないのかで
判断した方がいいってというのが意見だね。

(A)

私も同じように思う。

(依田 高校改革統括監)

違う意見の人はいるかな。(発言なし)分かった、ありがとう。

県教育委員会の考え方をお話しましょう。県教育委員会は勧告に対しての報告の中で、共学
化については、いろいろな人の意見を聞きながら、共学化を総合的に検討して推進していくと
いう見解を出しています。

県教育委員会は、男の人と女の人が、一緒に生活をして、仕事をして行くときに、男だからと
か女だからということで、仕事の内容が決まったり、生き方が変わったりすることはよくない、
とあっていて、一人一人、男の人でも女の人でも自分の特性、自分の希望とか自分の能力も含めて、

自分に合った生き方、職業を歩んで行ってもらいたいと思っています。そうしたときに、固定的に、男の人は、女の人はということではなくて、一人一人にあった生き方をしてもらおうとした際に、男の人と女の人が別々ではなくて、一緒にいる方が、男とか女とか分けて考えないで学校の生活を過ごせるんじゃないか、高校の三年間を男の人も女の人も協力をして過ごした方がいいのではないかとあって、総合的に検討する中で推進することにしています。

だけれども、だからといって、県教育委員会が、全ていつまでに〇〇高校を共学にしますと言ってるわけではない。別学の選択肢がなくなることについて嫌だと思う中学生もたくさんいることがアンケートで分かったし、やっぱり異性が苦手な人のことも考えなければいけないし、共学でも伸び伸びと、異性や人の目をあまり気にしないで、学力も体力も伸ばしていける学校にできるかを考えていこうと思ったので、皆さんの意見を聞こうと思ったのです。

皆さんからは、選択肢とかいろいろなお話がありました。今説明をしたことについて、意見があると思うので、聞かせてほしいと思います。Eさんは今話したことについてどう思うかな。

(E)

今実際子供が日本全体で減ってきてるっていうのもあるんで、共学化することによって、男女の能力が伸びるっていうのは全然良いかなって思ってる。

さっき言ったとおり、僕の知り合いにも、やっぱり異性が怖いなっていう人がいるって言ってたので。やはり道として、いくつか残しておくのはありじゃないかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。じゃあ、Dさんはどう思うかな。

(D)

共学であることで、お互い協力して伸ばすみたいなことは良いと思うんですけど、別学という選択肢も残しておくことで、異性があると本来の自分の力が出せないような人が、別学で力を出せると思うので、全部を共学化するとかそういうのじゃなくて、別学という道も残しておくのも良いと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。じゃあ、Cさんいいかな。

(C)

私もEさん、Dさんと同じで、いくつか残してくのは良いと思うし、異性がないから自分の力が発揮できるとか、そういう人もいるので、私もいくつか残していた方がいいと思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。じゃあ、Bさんいいかな。

(B)

男女で過ごしていて、協力して伸びることもあるけれど、異性とかかわるのが苦手な人がいたとしたら共学に行くのは気持ち的にもつらいと思うので、別学も選択肢として残しておいた方がいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとう。はい、じゃあAさん。

(A)

選択肢として残した方がいいと思うんですけど、ただ少子化で定員割れが起こったりするので、最終的にはおそらく公立高校が全部なくなって私立に移り変わるんじゃないかなと思っています。

ただ、その過程として、男女平等を謳うっていうのはどうかなと思います。少子高齢化だからだんだん減らしていきますよって言われたら、私たちはまあそうか、確かに少ないなと思いますけど、それを男女平等にするために共学化しますよって言われたら、そもそも別学が男女平等じゃないみたいな感じになってしまう。

(依田 高校改革統括監)

分かりました。少子化の話はこの後また、もうしばらくしてから話を移そうと思うけれども、とりあえず男女についての話を続けたいと思います。異性が苦手な人がいるから選択肢が必要との意見が多かったと思います。

そうしたこともあって、県立高校が137校ある中で12校、別学が今もあるわけなんです。ここで、皆さんの意見を聞きたいのは、皆さんの話では、性別で役割を分けちゃいけない、性別ではなくて一人一人の特性を見るべきだとのことでしたよね。

一方で、男子校、女子校の選択肢があった方がいい、異性が苦手ということは、皆さんの中でどう思うのかな。男はこう、女はこう、男子校はこう、女子校はこうだと思うということと、一人一人の人が違うということと、どのように考えているのかな。僕には男の人と女の人を分けているようにも、ちょっと聞こえたんだけど、どんどん反論してみて。

(A)

そうですね、ガールスカウト的には、私たちは一人で何かをやるんじゃなくて、みんなと協力してやり遂げるというのを、キャンプとかで勉強してるんですけど。一人力持ちの男性がいたら、一人力持ちの女性がいたら、その仕事は回ってしまうけど、私たちは一人一人、足が痛いとか、ちょっと体重いとか、そういう体調もありますし、筋肉が少ないなって思ってる人もいますが、その人たちが協力して働きアリみたいな、協力することで何か物事をやっていけるので、男女っていう、その枠に分けたとしても、その中で一人一人の得意不得意が分かってくるんですね。それで、男女という枠で見るとじゃなくて、その人その人のことを、男女も別の世界の中で見ることができるので、男女差別してるわけではなく、分けることで更にその人の個性が見え

るっていうことがあるかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

異性が苦手な女子であれば男子とは一緒にいたくないという人は、やっぱり女子の中だけで、学校生活を送った方がいいと思うかな。それとも一人一人男子とか女子とかじゃなくて、一人一人どういう人なのかを見て、良い人と付き合っていた方がいいよって、どっちをAさんは思うかな。

(A)

私はその人にゆだねます。なぜなら、その人の人生を歩むので、男女同じ世界に無理矢理連れ込むのもいいと思いますし、同じ性を持つ人たちの中にいてっていいと思います。どちらも尊重するんですけど、ただ異性が苦手っていう人の中にもいろいろ考え方あるので、選択肢は残していくっていうか、逃げ道を作るっていうか。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、そうだよね、そう思う。Bさんはどうかな。

(B)

異性というのに問題がない人は、男女一緒に暮らしてても問題ないと思うけど、異性同士でいるのが苦手な人にとっては、同性でいた方が安心して伸びる力もあると思うし、異性がいても問題がなければ異性との力を伸ばした方がいいと思う。

(依田 高校改革統括監)

Bさん、もうちょっと詳しくお話を聞きたいんだけど、異性同士でいるのが苦手とか、異性と一緒にいても安心できるとかっていう人がいるとのことだけれども、やっぱり違うのかな、女子と男子では。

(B)

男子は男子でも、女子は女子でも、思ってることも違うだろうし。

(依田 高校改革統括監)

男の人と女の人では思ってることは違うことってあるのかな。

(B)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。分かりました。だから、やっぱり女子は女子の考え方を持っている方が安心でき

る人もいるんだよということなんだね。

(B)

はい。

(依田 高校改革統括監)

Cさんはそれについてはどう思うかな。

(C)

私もそうだと思います。一人一人考え方が違うので、それにあったところを選べばいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

やっぱり男の人と女の人で、そういう考えに違いがあるのかな。

(C)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

うん、そう思うんだね。Dさんはどう思うかな。

(D)

今男女で仕事を分けちゃ駄目って話をしたけど、やっぱり現状では、女子だけの雰囲気とか、男子だけの雰囲気とか、異性という時の雰囲気とか、結構学校によって雰囲気が変わってくるから、男女で分けるんじゃなくて、個人がどういう考えで、女子しかいないからこっち、とかじゃなくて。学校の雰囲氣的に自分は女子だけの雰囲気の方が好きっていう人は別学に行けばいいし、自分は共学でもその雰囲気でやっていけるみたいな考えがあったら、共学に行けばいいし、そういうふうに自分が行きたいと思う学校に行くっていうので、やっぱり選択肢があった方がいいと思うし、自分の好きな雰囲気とかで行けるといいと思う。

(依田 高校改革統括監)

うん、言ってることよく分かりますよ。じゃあ、Eさんどう思うかな。

(E)

男子と女子に分けるのって、それを偏見で分けると差別ってなっちゃうから駄目なんですけど、それこそ男性は右脳の方が発達して、女性は左脳の方がみたいな、元々ある特徴で分けるのは差別とは違って区別だと思うんです。その区別を介した結果、本人の思考とか、特徴とか得意なものとか、苦手なものとか、そういうのはやっぱり特徴っていう、また別のジャンルに当て

はまると思うんで、その特徴とか思考に従った結果、別学校とか共学とか、それは本人の意思なので、差別とかとはまた別なんじゃないかなとは思っています。

(依田 高校改革統括監)

いろいろ良い意見をたくさんいただけて嬉しく思います。

県教育委員会は、男の人と女の人で、たしかにね、例えば骨格の違いがどちらかっていうと男の人の方が体が大きいんだとか、肩幅が広いんだとか、傾向としてあることは否定していません。男女の違いが、全くないとは言っていないです。女の人と男の人の違いは事実としてはあると思ってはいるんです。

ただ一方で、男の人と女の人の考え方が違うだとか、あとは能力がとか、男女で決まった能力の違いがあるかっていうところについては、県教育委員会はそのようには思っていないです。女の人には語学が得意、たとえば英語が得意なのは女の人だとか、数学が得意なのは男の人だとか、社会にそういうのがあるのかもしれないんだけど、県教育委員会はそういうことは考えていません。男の人でも女の人でも、変わりがなく、一人一人得意な人もいれば、得意じゃない人もいます。運動もそうです。女の人でも足の速い人もいれば、男の人でも足の遅い人もいますし、水泳が得意な人もいれば、ボール投げが得意な人もいて、いろいろ個人個人の得意があって、それは個人の違いであって、男の人と女の人で何か能力に差があるっていうふうには県教育委員会は考えていません。

全体として、どっちの身長が高いんだとか、どっちのボール投げが遠くに投げられるんだかっていうのは、それは統計すれば事実としてあるんだけど、だからと言って、男女の能力差を前提において、学校の教育活動をしように考えていることはなくて、一人一人の持っている特徴、特性に合わせて教育をしていくべきだというのが県教育委員会の考え方です。

性別である特徴っていうのは、事実としてあるものはあるけれども、それによって教育活動を男と女で分けようという考え方は持っていないということです。ここで皆さんの話を伺おうと思います。Dさんから学校によって雰囲気が違うという話がありました。女子校はこう、男子校はこう、共学はこう。だから選択肢になっていいんだっていうふうに皆さんは多分考えてるんだと思う。それを否定するわけではないです、県教育委員会はそうやって学校を揃えてるわけだから。選択肢として選んでもらっていいと思ってるのだけれども、県教育委員会が考えているのは男とか女とかっていうことではなくて、一人一人の特性に合った学びをやっていこうって考えている中で、男子校とか女子校とか、その学校の雰囲気が、男の人はこうだから、女の人はこうだから、になってるとするんだったら、今僕が言っていることと、学校がやっていることが、もしかしたら違うことになっている可能性が出てきちゃうなって思ったんです。

そこで皆さんに聞きたいのは、皆さんの中で男子校とか女子校と、共学のその雰囲気とかイメージ、皆さんはどう思っているのだろうって、ちょっとそこをまた聞いてみたいんだけど。じゃあ、今度はDさんから行こうか。女子校と男子校の違いってどう思うかな。共学もなんだけど、そこにどんな違いがあると思うかな。

(D)

女子校は、なんか共学とかにも比べて、すごい仲が良いというか、仲が深まりやすいとか。共学に比べて、やっぱり男子よりも同性同士の方がやっぱりなんか合う部分があるっていうのがあって、それで同じ性別の方が、仲は深まりやすいとか。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、特に女子校の話なのかな。同じ性別の人がたくさんいる方が、仲の良い友人が作りやすいっていう、そういうことかな。ちょっと違うかな。

(D)

イメージだから分かんないんですけど、共学はやっぱり男女とかで仲良くて、やっぱり女子校とか別学の方が、自分と周りでなんか似たような部分があるから、気軽に話せるような人がいっぱいいるみたいな。

(依田 高校改革統括監)

はい。じゃあ、Eさんは女子校、男子校、共学でイメージって違うかな。

(E)

違う側面もあります。例えば男子校に行きたい女子校に行きたいっていう人って、女子校、男子校っていう希望がある人が集まってるわけじゃないですか。だからここから持論なんですけど、もう必然的に思考が似通ってるのかなっていうふうに思います。ここに行きたいって言って集まった人たちだから、まあやっぱり似た思考になった結果校風が変わるっていうこともあると思う。

(依田 高校改革統括監)

行きたい人が男子校、女子校を選んできてるわけだから、思考が似ている人が集まるから、そういう思考の校風になっていくんだっていう考え方だね。Cさんはどう。

(C)

私は共学と別学はやることは変わらないけども、別学では男子だけの部活とか、女子だけの部活とか、そういう分けられているのがないのと、仲が良さそうだなっていうイメージがあります。以上です。

(依田 高校改革統括監)

はい。じゃあBさんは。

(B)

男子と女子でやっぱり思ってることとか、考えてることとかは、女子同士男子同士だと似て

たりするけど、女子と男子を比べた時に考えてることが全然違ったりして、話が噛み合わないことは時々あるかもしれないですし、女子と男子で一緒でもいいけど、分かれているとそれなりに雰囲気が変わったりするんじゃないかと思う。

（依田 高校改革統括監）

それは、女子校と男子校のイメージの違いになってくるのかな。考えが違って、お互いに話が噛み合わないようなことがあると。それは男子校と女子校の雰囲気の違い、イメージの違いになってくるかな。

（B）

そう思います。

（依田 高校改革統括監）

例えば女子校のイメージってどんなイメージをBさんは持ってるかな。

（B）

親しみやすいイメージがある。男子はノリで親しくなったり。

（依田 高校改革統括監）

うん、うん、なるほど。Aさんはイメージ持ってるかな。

（A）

別に違くないと思います。一緒だと思います。中学生高校生は思春期じゃないですか、異性の目を気にしてしまう。それ本能的にそうになってしまうと思うんですけど。だからこそ、男女で分けることで、男子校、女子校、どちらの方面を見ても、自由に自分らしく生きてる感じなんです。共学の学校よりも生き生きとしてる感じがして、異性の目を気にしないからかなと思った。女子校に通ってる知り合いがいるんですけど、その子は異性の目を気にしないから、自分らしく生きていけるって。

（依田 高校改革統括監）

分かりました。今のAさんの意見はどう思うかな。共学と別学を比べたってということだね。皆さんは共学と別学を比べてみてどう思うかな。そこはやっぱり共学に比べると別学の方が、生き生きと自由に生きてるっていうふうにイメージしてるんだね。

（出井 県立学校部副参事）

いろいろ意見ありがとうございます。私は3年前まで共学校の校長先生でした。皆さんこれから高校に入りますよね、ちょっと事例を一つだけお話ししたいなと思っています。自分らしく生きるとか、そういう点で今高校がどうなっているのかというところです。

公立高校で私が校長先生をしていた時に、男の子なんだけど、女性として、スカートを履いて高校に通いたい。という相談がありました。校長として、学校はみんなが伸び伸びとできるようにしたかったので、受け入れられますよと答えました。特に学校は、いろいろなことを学ぶ場なので、いろいろな子に入ってほしいなと思ってました。

その子が今年卒業したんですけど、その子が入ったことによって子供たちが変わりました。いろいろなものを受け入れて、いろいろなことを考えるようになりました。ほかの子供たちの中から、実は私もそういう考えがあるんですよとか、自由に活動できるようになりました。いろいろな子たちがいる中で学んでいくところにおいては、学校も変わっています。当然先生方も変わらないといけない。先ほど重いものとかで男女を分けて先生から指示されるといところもあったかもしれないけど、大人も考えていかなくちゃいけない。

共学校が良い、別学校が良い、という話ではなくて、皆さんがこれから高校を希望を持って選択するに当たって、いろいろな多様化の中でしか学べないということも、その時私も経験しました。これからの時代は皆さんと共に作っていかねばいけないので、高校に入った時に、その環境として固定化するのか、それともいろいろなものを考える場を作っていくのか。これはみんなで考えていかなくてはいけないものなのではないかな、とその時は感じました。

(依田 高校改革統括監)

Aさんから思春期なので、異性の目が気になると、別学だと異性の目が気にならないで、自由に生き生きできるとの意見がありました。そのことは事実なんだと思ってます。実際自由に生き生きと活動できるということは、アンケートや、いろいろな方からその話を聞く中で、意見をたくさんいただいています。

同性だけで生き生きと伸び伸びと活動していく中で、女の人はこちらだよね、男はこちらだよね、というような、性別によって違いがあるみたいな固定観念が、その雰囲気の中でできちゃって、これが役割分担にも、もしかしたら進んでいってしまう。女の方は、昔で言えば、家庭に入って子供を育てるのが女の人の特性に合ってるんだ。男は社会に出て、仕事をして、お金を稼いでくるのが、男の人の特性に合ってるんだ。いわゆる特性で物事を見て、役割分担まで決めてしまうような考え方に、男の人だけとか女の人だけで伸び伸びと気持ちよく生活することによって、そういうふうなことになっていってしまうのはとっても良くないことなんだなと考えている。昔はみんな、それが普通だと思ってたから。学校もそれが普通だと思ってた。だけど今は、男女共同参画って難しい言葉があるけれども、男の人でも女の人でも、共に協力をして社会で活躍をして、家庭のことも仕事のことも、一緒に協力をして、一緒にそれぞれの個性に合わせて、得意不得意を認め合った中で、協力し合ってやっていこうという世の中にこれから進めていこうとしていて、学校もそういう学校にしたいなと思っていて。

別学であって、異性の目を気にしないで、伸び伸びと自由に生き生きと学校生活を送ることはとっても良いことだと思うのだけれども、そういう雰囲気の中で、男女の特性のようなものができていってしまわないようにしたいと思っているんです。それについて皆さんの話を聞きたいんだけど。

(A)

その前に質問いいですか。別学でそういう特性が分かれてしまう、男女によって分かれてしまうということは、女性は家事の授業、男性は仕事の授業があるってことなんですか。

(依田 高校改革統括監)

20 年前まではあったんです(のちに 30 年前に修正)。これは共学校でも男子校でも女子校でも一緒です。例えば男の人は技術っていう、中学生で言えば、ラジオの組み立てとかを授業で勉強したり、女の人には料理とかを勉強するとか具体的にカリキュラムの違いが、共学校でも男子校でも女子校でもあったんです。今は教育課程とか外形的なものはないんです。

ないのだけれども、今言われてるのがさっきCさんが言ったような、隠れたカリキュラムがあるのではないかとすよね。例えば、女子校の体育祭と男子校の体育祭の違いに隠れてないか去年調査をしたんです。調査結果では、男子校の人には、共学になったらこれはできないとか、男子校だからこれができるとか、女子校にも女子校だからこその活動だとか、この行事は女子校だからのもの、と考えられているものもありました。その一つ一つの取組や行事を県教育委員会が良いとか悪いとかは思っていないです。ただ、男子だからとか、女子だからということをも前提に置いた行事には、男女の特性を刷り込むような教育になっちゃうのはよくない。例えば伝統があって、みんなが喜んでやってる行事自体を否定はしない。だけれども、その行事をする理由に、男はこうあるべきだからこういうことをやる、女性はこういう女性であるべきだからこういう行事をやる、っていう考え方の下でそれを教育活動としてやってるんだったら、それは刷り込みになっちゃうんじゃないですかっていうふうに県教育委員会は思ったんです。

そこで女子校と男子校に、共学も含めて、共学だって男子と女子で演目が違った際に、演目の違うこと自体を否定はしてないんですよ、生徒がやりたいような演目があってやるにはいいんだけれども、そこに女子はこうであるべきとかね、男子はこうあってほしいとか、男の人のやるものだから、女の人にはこれはやらないでくださいみたいな話になってくるとすると刷り込みになっちゃうと、今は目指そうとしている社会像に対する考え方とずれが出てきちゃうなって思ったんです。

そういう危険性があるとすれば、県教育委員会は学校に対して気をつけるように伝えなきゃいけないし、また皆さんの中にもちょっと考えてほしいなと思うところがあったんですけど、どうですか。

(A)

でも自分たちがやりたいって思っている人であればやればよいと思います。ただ、学校側があなたたちは女子なのでこれをやりなさい。あなたは男子なので、これをやりなさい。と刷り込んでいるのであれば、それは学校側がやっぱり固定観念がまだ薄れてきてないなと思うんですけど、ただ生徒自身がこれをやりたいですって言うるのであれば、それは尊重しなきゃならないと思います。性別によってたぶん競技は考えてないと思うんですね、同じ性別だけど私たちはやりたいのはこれだっていうので、異性を気にしないっていうのもあるんだと思うん

ですけど、やりたいのはこれだっていうのを、はっきり言える環境ではあると思うんですね。共学と比べて、やはり異性の目を気にしないから、自分の意見を言いやすいっていう人も中にはいると思うんですよ。だから、それこそ刷り込みじゃなくて、自分たちで発信している競技だったらいんじゃないかなと。

(依田 高校改革統括監)

私の話の中の家庭科について、20年前ではなく30年ほど前のことでした、ごめんなさい。今のAさんの意見、ほかに何か考えがある方はいますか。男の人と女の人で、考え方の違いがあるとか、意見が合わないこともあるとの事実があったんだけど、それによって、例えば体育祭で、女子はダンス。男子は棒倒しといったように、これは共学も含めてなんだけれども、男の競技だ、これは女性だという、そういうふうに学校の教育活動になることについてはどう思うかな、Cさんはどう思うかな。

(C)

それは学校のことなので。学校が男子と女子で別にしてるんだったら、それはおかしいと思うなら、競技を変えたりすればいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

それはAさんがおっしゃってるのと似てるかな。要は子供がどう思うか、生徒自身がどう考えるかで考えていけばいいということをCさんはおっしゃってるのかな。

(C)

はい。

(依田 高校改革統括監)

うん、そうか。Dさんはどう思う。

(D)

体育祭の競技もやっぱり、さっきおっしゃってたダンスとかの話を先生が決めたのなら、しょうがないと思うこともあるけれど、生徒がやりたいと思ったことも、アンケートを取ったり、男女が共同で一緒にできるものを取り入れるのも大事だと思います。

(依田 高校改革統括監)

じゃ、ちょっとまた聞こうと思うんだけど、男と女の特性や特徴は違うんだとの意見がありました。だとすれば、特性に合った教育が必要だという意見もあると思います。良い悪いではなく。別学校の雰囲気とか伝統は、男性の特性とかそういったものから来てると思うのかな。

(E)

伝統行事ってなんか昔の生徒たちが作り上げたみたいなのがあるじゃないですか。だから当時の生徒たちの考えが反映されてるのかなって思う部分もあります。だから、やっぱり特性までも反映するのはよろしくないと思うんですけど、考え方を反映するのは全然良いと思うので、時代によって、伝統行事を変えていくっていうのもいいんじゃないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。Dさんはどう思うかな。

(D)

さっきAさんが言ったように、生徒自身がこうしたいっていう意見を、学校が反映させていくのはいいと思うんですけど、学校からあなた女性だから、これをやりなさいとか、そういうのはやっぱりだめだと思うんですけど、やっぱり昔からある体育祭の伝統、ダンスの競技は昔からやってるよとか、そういうのだったら学校の特徴としてはとっといてもいいのかなっていう考えもあります。

(依田 高校改革統括監)

それも生徒が判断した方がいいということかな。学校というところだから、先生たちが生徒に対して、これを学んでほしい、これを身につけてほしいという気持ちはあるから、学校の先生と生徒たちが意見を交わしながら、作り上げていくのが一番良いと私も思っています。

時間も過ぎてきたんで話を少し変えますね。さっきAさんが少子化の話をしました。その少子化について、お話を聞いていきたいんだけど、少子化で、皆さん今後どのくらい子供の数が減っていくって思いますか。10 年とか 15 年という単位で見るとどのくらい中学生が減っちゃうって思ってますか。Dさんどのくらいだと思うかな。

(D)

だいたい今自分の学校の学年が 100 人とか、120 人とか、そういう 1 学年なんですけど、去年小学校に職場体験で行った時に、その一年生の数が 100 人切ってて。それでちょっとずつ減ってくのかなって。

(依田 高校改革統括監)

そうなんだ、ちょっとずつ減っていくんじゃないかと。Cさんはどれくらい減っていくと思う。

(C)

半分くらい。

(依田 高校改革統括監)

半分、どのくらいで。

(C)

20 年ぐらい。

(依田 高校改革統括監)

20 年ぐらいで半分、なるほど。Bさんはどう。

(B)

だいたい 10 年後ぐらいには今の 8 割ぐらいになってるんじゃない。

(依田 高校改革統括監)

今の 8 割ね、なるほど。

どのくらい子供がずっと減っていくか事務局データありますか。

(事務局)

県教育委員会の推計です。公立中学校等の卒業予定者数になりますが、令和 6 年 3 月から、令和 20 年 3 月までの 14 年間で、約 58,900 人が約 44,100 人と、14,800 人程度減少することが見込まれています。

(依田 高校改革統括監)

令和 6 年から令和 20 年だから、15 年ぐらいのスパンで 25%程度だから、100 人いた学校、Dさんの学校が 100 人ちょっとと言ったけど、100 人いる学校が 75 人程度に県の全体の平均でなるとのことですね。で、ここでまた地域によっても、大きく減る地域もあれば、ほとんど減らない地域もあります。この東部・利根地域はどうだろう。

(事務局)

東部・利根地域は令和 6 年 3 月が 14,668 人ですが、それが令和 20 年 3 月には 10,349 人、4,319 人の減ということになっております。

(依田 高校改革統括監)

県全体だと 25%程度と言ったけど、東部・利根地域になると約 3 割です。これから、3割の高校を減らすことは考えていないけれども、学校の数には減らしていかないといけないと思っています。なんでかという、それは生徒の数が減ること、高校はなかなか小さくできないからです。

高校には、たくさん教科がある。先生が小学校のように、クラスの数に応じて先生の人数が決められない。高校の先生の人数が少なくなると、例えば数学を教える先生が国語も教えなければいけなくなったりすることもあるかもしれない。高校で一人の先生が違う科目の勉強まで教えるのは難しい。専門の資格を持った先生に、専門的に各教科の勉強を教えてもらえないのは、よくない。そういうことを考え、高校には一定の大きさが必要だと思っています。

さらに、高校は同じ勉強する学校ばかりではなくて、商業や、農業、工業の勉強をする学校も、普通科目を中心に勉強をする学校もある。一人一人の能力とか希望に沿って、通える学校を、減らす中でも揃えていかないといけない。そうした時に、学ぶ内容が重なる学校はくっつけていく必要がでてくる。今個々の具体の高校の話をしているわけではない。

それが、皆さんと話をしてきた男女別学、共学のことは別の話として、学校の学びの選択肢をちゃんと揃えながら、学校の数を減らしていこうとすると、同じ学びの学校などをくっつけたりして、生徒に自分の希望と能力に応じた学校を各地域に配置しようとした時に、再編整備を考慮しなければいけない。そこに、同じ学びをする別学校が、同じ地域に設置を続けることができるかどうかは、また別の議論としてあるので、県教育委員会が考えなければいけなくなってくる。

(A)

それは、共同参画の苦情処理の方々が連絡する前から考えていたって言うことですか。

(依田 高校改革統括監)

苦情処理委員の勧告がある前から、再編整備は 20 年以上前から進めてきていて、少しずつ県立高校は減ってきているんです。別学校も減ってきている。

例えば、行田女子高校と行田進修館高校、行田工業高校が一緒になって、今、進修館高校という共学校になっています。男女共学を推進するという考えとは別で、地域に残す学びを考え、別学校も共学校と同じように減ってきている。

で、今後ますます中学生の数が減っていく時に、今まであまり話題に上ってこなかった地域でも、学校の再編整備は必要になってくる。東部地域の皆さんが住んでいる地域においても例外ではないってことなんです。だから、今まで話していた話とは全然別の話として、県教育委員会は考えていかなければいけないと考えています。

(A)

その考えていたその流れの途中で 1 件の苦情が来て、じゃあついでにみたいな感じですね。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会は、元々男子と女子が共に学校生活を送ることは好ましい、望ましいことだと、前から思っていました。だから、新しく作ってきた学校は共学校です。少子化の状況があまり顕著にならないうちは、基本的に学校が、自分の学校を今後どうするかを考えていくことを前提にしていた。男女はともに学ぶことは望ましいことだって県教育委員会は考えていて、学校の先生たちもそのように考えてきた。

ただ、生徒の意見もあったり、中学生の皆さんの意見もある中で、各学校で自分の学校の今後を考えてくださいと、去年まで言ってきた。けれども、今おっしゃった、少子化と、学校の再編整備を考えた時に、学校に任せるのではなく、県教育委員会が全県を見渡しなが、各地域

の学びのバランスを今、別学のある地域でも考えることが必要になってきたので、県教育委員会が主体的に判断をすることにしました。

これからは県教育委員会が主体性を持って考えるようにしたいと。学校は自分の学校について考えているのに、急に県教育委員会からズドンとなるのはよくないから、これからは県教育委員会が、共学の推進も、主体的に考えていきますということです。

(A)

ドーンと話を進めるために、共学化にすることでジェンダー平等になりますよ、と。

(依田 高校改革統括監)

元々県教育委員会は推進していたんです。

(A)

推進していたけど、学校の方は動かないから、じゃあ、県教育委員会はジェンダー平等だから、県教育委員会が考えますよって言ったんですよね。

(依田 高校改革統括監)

ジェンダー平等、男女共学の推進というのは、今までも学校と県教育委員会は推進する立場でできているんです。

これまで学校は、今後の自分の学校を考える中で、今の別学 12 校については、共学化の具体的な検討を進めなかった。ほかの学校で、例えば常盤女子高校が常盤高校になったり、川口工業の学科で、男子だけだったのを共学化したり、学校が独自で取り組んだものはあります。

12 校については、具体的な取り組みをする必要がないと学校が判断してきたので、県教育委員会も、学校の主体的な取り組みを尊重していたから、12 校には指示を出してこなかった。

これからは、県教育委員会が責任を持たないと、周りの学校の再編整備を見て、これまでの男女共学の推進とは別の議論として共学になってもらわなければいけない可能性も出てきたということです。

(A)

元々はジェンダー平等が目的ではなく、少子高齢化の問題が浮き彫りになってきたからでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会が主体性を持つと言ったのはそのとおりです。ただ県教育委員会の元々の考え方は推進ですし、これまで共学化は進めてきた。12 校については、学校で取り組みがなかったから止まっていたということ。

(A)

元々は少子高齢化で進めていた話ということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

元々は少子高齢化と関係なく、男女の共学化を推進してきた。少子化は関係なかった。

(A)

じゃあなにが原因なんですか。

(依田 高校改革統括監)

県教育委員会は男の人と女の人と一緒に学校生活を送る方が望ましいと考えている。それはもう何十年も前からです。それは男の人も女の人と同じ内容の学びをした方がいいとの考え方。分けて別の学びをさせるのは県教育委員会としての考えではないから。

だから男子校でも女子校でも同じ学びをなるべくするように県教育委員会は考えてきた。だけど同じ学びをするには一緒に学んだ方が同じ学びになる。

(A)

効率が良いということですか。

(依田 高校改革統括監)

効率も良い、効率だけじゃないけど。分けることによって、特性がクローズアップされるリスクはあると思っている。

分けて学ぶことで生き生き学べることは良いことなんだけれども、そこに隠れている課題もあると思っている。一緒に学ぶことで同じ学びができるということは、実態として同じ学びができと思っている。分けることによって同じ学びができない課題が潜んでいると思っている。

男の人でも女の人でも、同じ勉強をした方がいいという考え方は、これはもう 80 年近くそう思っている。女の人のためにも、男の人のためにも、違う学びがあった方がいいと昔は思っていた。女の人には良いお母さんになるような教育が必要とか、男の人には外に出て一生懸命仕事して、お金を稼いでいくような教育が必要とか、そういうふうに教育を分けた方が昔は良い教育だと思っていた。

けれども、戦争が終わった後から、男の人でも女の人でも同じ勉強をした方がいいとの考えに沿って、ずっと共学化を進めてきた。けれども、それぞれの学校の個性があったり、地域の思いがあったり、中学生の希望がある中で、各学校が自分で考えてきた。

それとは別にここ最近においては、少子化で学校を減らしていかなければいけなくなった時に、共学校も別学校も、どちらも変わらずに統合しないといけない学校が出てくる。

(E)

さっきの議題で話した内容に、少子高齢化っていう問題が加わっちゃったから、学校だけじゃなくて、県教育委員会全体で考えなきゃいけない。

(依田 高校改革統括監)

それを県教育委員会が主体的に検討しますというふうに去年発表した。だからその理由は少子化なんです。

(E)

やらざるを得なくなった。

(依田 高校改革統括監)

一定の規模の学校を残すためには、学校の数を整理しなければいけなくなっている。

(C)

別の話になっちゃうんですけど、共学化問題について、公費で行われる公立高校だけが対象で、私立高校は男女別学が議論には上がってないそうなんですけどどうしてですか。

(依田 高校改革統括監)

社会全体とすればあがってないわけではないんだと思う。けれども、勧告と報告の関係だと、勧告が県立高校の男子校に入りたい女子中学生が、県立高校の男子校に入れないことに対しての苦情に対してだった。もし私学の男子校に入りたいけれども、入れないのがおかしいという苦情に対してだったら、違ったと思う。勧告も県立高校にだけなされた。

県教育委員会が所管しているのが県立高校だから、県教育委員会が今回報告を出している。私学も共学化については、それぞれの私学の学校法人の中で、今後の学校をどうするか議論されていることは、新聞報道などでも分かる。社会では私学も含めて、共学化の動きは出てきています。

(C)

少子化の問題で減らすとかって話にはなってないんですか。

(依田 高校改革統括監)

私学でも少子化の影響で共学化を考えるっていうのは、言われてます。

生徒数の減少に応じて関西で今、武庫川女子大という大きな女子大が共学になると話題になっている。共学と別学の議論がある中で、さらに少子化の影響があって、共学化の議論っていうのはいろいろなところでされているので、私学に関心があれば、私学の方も関心を持って見てもらった方がいいかもしれない。

(C)

はい。

(依田 高校改革統括監)

皆さんから質問とか意見とかがあれば。また、みんなの中で意見交換をしたかったら、話してください。

(A)

やっぱり別学校ちょっとは残しといた方がいいかなと思います。全国的に共学化が進んでるじゃないですか。埼玉の別学校は頭がよろしい学校が多いじゃないですか。それが埼玉に人を呼ぶ力になっているのであれば、残した方が埼玉のためにもなるかなって思います。

(E)

今の意見すごく同意なんですけど、でもやっぱり定員割れしちゃってる別学校を残すっていうのは、実際問題なかなか難しいじゃないですか。だから定員割れしてない、まだ望まれてる学校は残してほしいですね。似たような意見になっちゃうんですけど。

(D)

私も、その別学に、定員割れとかせずに、行きたいって人がいるのであれば、残しておいてもいいと思うし、でも、人数が少ないって言うのだったら、少ない別学を残していかないといけないって言う考えではない。

(依田 高校改革統括監)

中学生の志望が少なくなった学校と、中学生の志望が集まる学校とで、違いがあると思うんです。それも大切なことなんだけれども、もう一つ、その地域でどういう学びの内容を残すのか、これからいろいろ今までにない学びの必要があるのかなと思っている。

例えば、中学校から高校の中高一貫教育、外国の大学に進学できるような学び、産業教育、AIとか情報をしっかり学べる学校、自分のライフスタイルにあった、通信制とか定時制の良いところを併せ持ったような学びができるとか。

これまでである学校だけではなくて、新しい学校も考えていかなければいけない。新しい学校ができた時に、男子も女子も両方行ける学校にしないといけないとかを考えた時に、中学生の希望が多い学校は残すだけじゃなくて、この地域にどういう学びを、どういう学校を配置していくのかということも、両方合わせて考えていこうとしています。魅力ある学校を作った際には、どちらかの性別しか学べない学校にするのは難しいのかなと思っています。

ただ、皆さんの地域にある別学校について、今どうしたいとか、こうしたいと思っているってことではないことは、安心をしてほしいと思います。意見交換をする中で、県教育委員会の考え方をお伝えをしながら、皆さんの意見を伺って、その意見をそのまま県教育委員会で共有をして、今後の、今説明した再編整備も含めて、男女共学化の推進を検討していくことにします。決して県教育委員会の考え方が正しいから、県教育委員会の考え方に皆様になってくださいと思っているのではないことは分かってください。県教育委員会是这样考えているということだと思ってください。

県教育委員会の考えに対して、皆さんが反対意見を持つことはとても大切なことだと私は思っています。私も皆さんの意見を正しいとか正しくないとか考えながら聞いていません。そのまま素直に中学生の意見として、とても参考になったと思ってます。嬉しく思ってます。以上で終わりにしたいと思うんだけど、もしあれば。

(A)

去年アンケート取ってたじゃないですか。それで、中学生も高校生も別学は残してほしいというのが半分超えていたと。たくさん見られたと思うんですけど、その人たちの意見も尊重するのであれば、男女別学ちょっとは残してほしいなと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい。ちょっと去年のアンケート、特に中学生の意見をちょっと見てみようか。

(事務局)

男女別学校 12 校のあり方についての質問結果です。中学生の回答ですが、「男女別学校は共学化の方が良い」が 18.7%、「男女別学校は共学化しない方が良い」が 19.3%、「どちらでも良い」が 56.2%、「その他・分からない」が 5.8%という状況でございました。

(依田 高校改革統括監)

たくさんの中学生に答えてもらってありがとうございます。共学化しない方が良いというのがやっぱり 19%、この意見は率直に受け止める必要はあります。それだけの割合の方が、別学校を共学化しない方がいいと考えてることは受け止めていきたいと思います。

(A)

その「共学化しない方が良い」の中の中学 3 年生の割合は何パーセントですか。

(事務局)

これは学年別には出ていないです。

(依田 高校改革統括監)

学年別にはちょっと分からない。2 割近い人が思っていることは、少ないと思っていません。

(A)

中学生でも、中学 3 年生、2 年の後半から 3 年生にかけて進路学習するんですけどうちの学校は、だから 1 年生、2 年生あたりはそもそも高校について知らないとか、そういう人も多いんじゃないかなって資料を見て思いました。

(依田 高校改革統括監)

現実味という意味ではそうかもしれない。ほかはありますか。大丈夫かな。
今日は皆さん、ありがとうございました。